

第208回（令和4年11月27日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

帳簿記入に関する基礎的な知識を文章の正誤判断で問うている。

1. 仕訳帳に記入される「小書き」の意味を確認している。
2. 仕訳帳および総勘定元帳における「✓」（チェックマーク）の使用について確認している。
3. 総勘定元帳の各勘定口座を締め切る際の合計線について確認している。
4. 仕訳帳の意義および総勘定元帳への転記の手続きを確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、関西商店連合会の会員から会費を集金した取引である。会費収入（収益）の発生と、現金（資産）による集金の記帳を問うている。
2. は、関西商店連合会が保管していた現金を銀行預金（普通預金）に入金した取引である。現金（資産）の預け入れによって、普通預金（資産）が変動した際の記帳を問うている。
3. は、関西商店連合会の事務所で発生した家賃を現金で支払った取引である。支払家賃（費用）の発生と、その支払いによって現金（資産）が変動した際の記帳を問うている。
4. は、商品売買業者（家電販売業）が商品（プリンター）を代金後払いの条件で購入した取引である。商品（資産）の購入と、掛け取引によって買掛金（負債）が変動した際の記帳を問うている。
5. は、商品売買業者（家電販売業）が商品（プリンター）を販売した取引である。商品（資産）の引き渡しと、その代金として現金（資産）の受領および取引で発生した商品販売益（収益）の記帳を問うている。
6. は、商品売買業者（家電販売業）が前月に購入した商品の掛け代金を支払った取引である。買掛金（負債）の支払いと、その支払いによって普通預金（資産）が変動した際の記帳を問うている。
7. 商品売買業者（家電販売業）が従業員に給料を支給した取引である。給料（費用）の発生と、その支給によって現金（資産）が変動した際の記帳を問うている。

8. 商品売買業者（家電販売業）の借入金にかかる利息が銀行預金から引き落とされた取引である。支払利息（費用）の発生と、その支払い（引き落とし）によって普通預金（資産）が変動した際の記帳を問うている。

第3問<会計の構造に関する出題>

本問は、貸借対照表と損益計算書それぞれの構成要素の金額関係と、貸借対照表と損益計算書の関係を問う出題である。

企業の経済活動は、期首の貸借対照表を出発点として始まり、期中の様々な経済活動を経た結果、期末の貸借対照表のような財政状態となる。この貸借対照表では、それぞれの時点（期首および期末）で①「資産＝負債＋純資産（資本）」という等式が成り立つ。

そして、期中に行った経済活動の成果（経営成績）を表すのが損益計算書である。そこでは②「収益－費用＝当期純利益」の算式で利益が計算される。ここで計算された利益は、期末純資産（資本）に反映される。つまり、資本の追加出資や引き出しがないことを前提として③「期首純資産（資本）＋当期純利益＝期末純資産（資本）」という算式になる。

これらの関係を理解しているかを金額の穴埋め形式で出題した。

第4問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

1 か月の収支計算を示すことによって会計報告を行う場合には、前月繰越金から出発し、報告する1か月の活動による変動を経て、次月繰越金に至ることを示す会計報告書を作成する。そして、非営利組織の会計報告書は、現金の収入と支出の記録に基づいて作成する。

本問では、日々の現金取引を記録した現金出納帳の記帳から、マンション管理組合の会計報告書（勘定式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、複数ある支出項目については、指定された順番で記入することに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期間損益計算を行う営利企業を対象とする会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から残高試算表を作成し、それに基づいて損益計算書と貸借対照表を作成する過程を示す精算表を出題した。作成に際しては、示されている資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目残高が、借方残高か貸方残高かを理解しているところから確認している。